学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業

自治体名

岩手県陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、宮古市

学校数

震災後の地域の状況・仮設住宅数

震災により、多くの住民が仮設住宅での暮らしを余儀なくされており、仮設住宅等に居住する中高生が落ち着いて学習に取り組むことが困難な環境にある。

＜取組名＞　～沿岸被災地　中高生への学習支援～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
		○		子どもたちの未来を創る「学びの部屋」実行委員会
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
				陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、宮古市

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○				（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

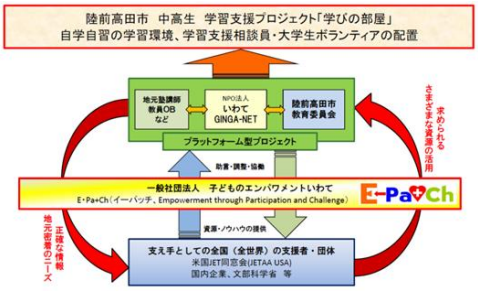
＜取組の内容を具体的に記載＞

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災によって、岩手県沿岸部は甚大な被害を受けた。この状況を踏まえて、2011 年 11 月から中高生の放課後の居場所・学習場所を確保する目的で「学びの部屋」が開設された。平成 25 年度の開催場所は、陸前高田市 4 箇所、大船渡市 5 箇所、住田町 1 箇所、釜石市 3 箇所、宮古市 5 箇所の計 18 箇所となっている。

「学びの部屋」は、地元の市町村教育委員会と一般社団法人子どものエンパワメントいわてが協働で実施している。

陸前高田市の陸前高田市立第一中学校（以下、高田一中）では、平日 19 時から 21 時、日曜日 9 時から 17 時に、3 教室を利用して実施している。自学自習が基本で、生徒はどの曜日、どの時間に来ても帰ってもよいことになっている。開催時間中には、地元の教員 OB、被災した地元塾の講師、教員免許や福祉専門職の資格を持つ「学習支援相談員」が 2～3 名常駐し、学習支援を行っている。

「学びの部屋」では、学習支援の他にも、友人同士お話をしたり、学習支援相談員に悩みを打ち明けたりすることもできる。毎週日曜日には、岩手県内や首都圏から大学生ボランティアがやってきており、こうした他地域・多世代の人と交流することで、生徒たちが自分の夢を描いたり、目標に向かった「ヤル気」を生み出したりする場にもなっている。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

東日本大震災により、陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市など、沿岸地域において甚大な被害を受け、多くの住民が仮設住宅での生活を余儀なくされた。仮設住宅で生活する児童生徒も多数おり、落ち着いて学習に取り組める環境を確保することが課題となった。また、中高生の学習の場となっていた図書館等の公共施設や塾なども大きな被害を受けており、児童生徒が落ち着いて学習に取り組んだり、学習を通じて友だちや地域住民と交流できる地域の居場所づくりが課題となっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

各家庭をはじめ、仮設住宅の自治会、学校（仮設校舎）など、地域の生活環境も大きく変化しており、こうした環境下で、中高生が安全に学習の場に行き来したり、落ち着いて学習に取り組んだりできるようにするため、家庭や学校、地域等と連携して進める必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

各市町の教育委員会や学校、仮設住宅自治会等と連携し、学びの部屋の開催場所を設定した。また、地元の教員OB、被災した地元塾の講師、教員免許や福祉専門職の資格を持つ「学習支援相談員」を確保するよう、地域や行政と連携して進めている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

学習支援はもちろんのこと、様々な悩みをもつ中高生の相談にもできる限り対応できるようにするため、学習支援員の研修機会を設けたり、指導員間で情報共有したりしながら進めている。また、学校の先生とも情報共有し、生徒の支援にできるだけ活かすようにしている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

仮各開催場所で、以下のような成果がみられた。

・自学自習時間の確保や支援員の学習指導により、生徒の学習習慣作りに役立ち、基礎学力の向上が図られた。

・友達同士の教え合いや学び合いの姿、また、異学年の交流や他校生徒との交流の姿も見られた。

・大学生の学習支援ボランティアをはじめ、様々な方々との交流により、学習面のみならず、精神的にもサポートしてもらうことができ、心の居場所作りにもつながった。

◇課題や今後の展望

より個別の生徒への対応を継続すると共に、支援の質の向上を図るため、新たな支援員の人材確保・育成にも取り組んでいく必要がある。